

**Oracle® Hyperion Enterprise Performance Management Architect**

**File Generator User's Guide**

リリース 11.1.2.3

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	5
<b>第 1 章 Performance Management Architect ファイル・ジェネレータのインストール .....</b>	<b>7</b>
<b>第 2 章 Performance Management Architect インポート・ファイルの生成 .....</b>	<b>9</b>
Financial Management ファイルから .....	9
Financial Management アプリケーションから .....	10
Planning アプリケーションから .....	11
Performance Management Architect、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)アプリケーションから .....	12
Microsoft Excel から生成 .....	14
Financial Management 次元の関連付け .....	17
次元の削除 .....	18
ファイル・ジェネレータを閉じる .....	18
<b>索引 .....</b>	<b>19</b>



---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。



# 1

## Performance Management Architectファイル・ジェネレータのインストール

Oracle Hyperion EPM Architect ファイル・ジェネレータを使用すると、次のソースからインポート・ファイルを作成できます:

- 既存の Oracle Hyperion Financial Management ファイル(.PER、.SEC、.XML メタデータ・ファイルなど)

**注:** サポートされているのは Financial Management .XML フォーマットのメタデータ・ファイルのみです。.APP フォーマットは直接にはサポートされていませんが、システムから XML フォーマットにメタデータを抽出して、コンバータを使用できます。

- 既存の Financial Management アプリケーション
- 既存の Oracle Hyperion Planning アプリケーション
- 既存の Performance Management Architect アプリケーション(連結、Planning、汎用、Essbase (ASO)、Essbase (BSO)、Profitability and Cost Management の標準および詳細のアプリケーション・タイプ)
- Microsoft Excel ファイル

Performance Management Architect ファイル・ジェネレータを使用するには、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 が必要です。Microsoft .NET Framework は <http://msdn.microsoft.com/downloads> からダウンロードできます。

- ▶ Performance Management Architect ファイル・ジェネレータをインストールするには、EPM System インストーラを使用します。

『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。





# 2

## Performance Management Architectインポート・ファイルの生成

### この章の内容

Financial Management ファイルから .....	9
Financial Management アプリケーションから .....	10
Planning アプリケーションから .....	11
Performance Management Architect、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)アプリケーションから .....	12
Microsoft Excel から生成 .....	14
Financial Management 次元の関連付け .....	17
次元の削除 .....	18
ファイル・ジェネレータを閉じる .....	18

- ▶ Performance Management Architect のファイル・ジェネレータ・ユーティリティを開くには、「スタート」、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Foundation Services」、「Performance Management Architect」、「EPMA ファイル・ジェネレータの開始」の順に選択します。

**ヒント：** 「ヘルプ」をクリックして、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect ファイル・ジェネレータ・ユーザー・ガイド』にアクセスできます。

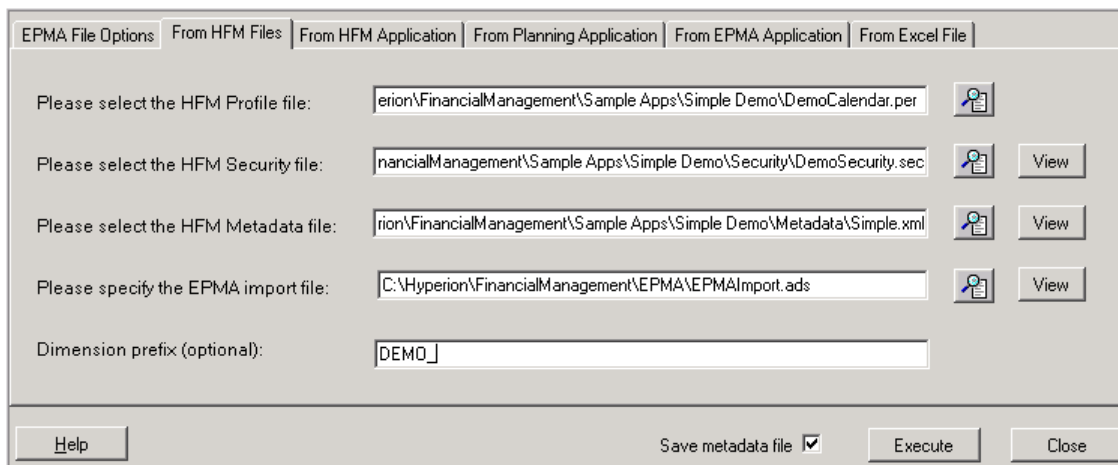
## Financial Management ファイルから

インポート・ファイルを作成するには、次の Financial Management ファイル・タイプが必要です:

- アプリケーション・プロファイル・ファイル(.PER)
- セキュリティ・ファイル(.SEC)
- メタデータ・ファイル(.XML)

- ▶ 既存の Financial Management ファイルからインポート・ファイルを作成するには:

- 1 「HFM ファイルから」をクリックします。



- 2 プロファイル・ファイル(.PER)、セキュリティ・ファイル(.SEC)およびメタデータ・ファイル(.XML)を選択して参照します。
- 3 EPMA インポート・ファイルの名前を指定するか、既存ファイルを検出して上書きします。
- 4 オプション: テキスト・エディタにインポート・ファイルを表示するには、「表示」をクリックします。
- 5 オプション: 次元の接頭辞を入力します。
- 6 オプション: 「メタデータ・ファイルの保存」を選択します。

Performance Management Architect がアプリケーションをインポートする場合は、.xml ファイル(metadata.xml)としてインポートされます。Performance Management Architect によって変換が実行され、.ads ファイルが metadata.xml ファイルから作成されます。通常、このファイルはトラブルシューティングの目的に使用されます。非常に大きいアプリケーションでは、このオプションを選択しないことをお勧めします。

- 7 「実行」をクリックします。

## Financial Management アプリケーションから

既存の Financial Management アプリケーションからインポート・ファイルを作成できます。

- ▶ 既存の Financial Management アプリケーションからインポート・ファイルを作成するには:
  - 1 「HFM アプリケーションから」をクリックします。

EPMA File Options | From HFM Files | From HFM Application | From Planning Application | From EPMA Application | From Excel File

Please enter the User Name:  Password:

Please enter the Workspace URL:

Please enter the HFM Web URL:

Please enter the HFM Application name:  Cluster Name:

Please specify the EPMA import file:

Dimension prefix (optional):

Save metadata file

## 2 次の情報を入力します:

- ユーザー名およびパスワード
- ワークスペース URL
- Financial Management Web URL
- Financial Management アプリケーション名
- クラスタ名

## 3 EPMA インポート・ファイルの名前を指定するか、既存ファイルを検出して上書きします。

## 4 オプション: テキスト・エディタにインポート・ファイルを表示するには、「表示」をクリックします。

## 5 オプション: 次元の接頭辞を入力します。

## 6 オプション: 「メタデータ・ファイルの保存」を選択します。

Performance Management Architect がアプリケーションをインポートする場合は、.xml ファイル(metadata.xml)としてインポートされます。Performance Management Architect によって変換が実行され、.ads ファイルが metadata.xml ファイルから作成されます。通常、このファイルはトラブルシューティングの目的に使用されます。非常に大きいアプリケーションでは、このオプションを選択しないことをお勧めします。

## 7 「実行」をクリックします。

# Planning アプリケーションから

既存の Oracle Hyperion Planning アプリケーションからインポート・ファイルを作成できます。

## ▶ 既存の Planning アプリケーションからインポート・ファイルを作成するには:

### 1 「Planning アプリケーションから」をクリックします。

EPMA File Options | From HFM Files | From HFM Application | **From Planning Application** | From EPMA Application | From Excel File

Please enter the User Name:  Password:

Please enter the Workspace URL:

Please enter the Planning Web URL:

Please enter the Planning Application name:  Application Server:

Please specify the EPMA import file:

Dimension prefix (optional):

Save metadata file

## 2 次の情報を入力します:

- ユーザー名およびパスワード
- ワークスペース URL
- Planning Web URL
- Planning アプリケーション名
- アプリケーション・サーバー名(アプリケーション・サーバー名はクラス  
タ名です。)

3 EPMA インポート・ファイルの名前を指定するか、既存ファイルを検出して上書き  
します。

4 オプション: テキスト・エディタにインポート・ファイルを表示するには、「表示」  
をクリックします。

5 オプション: 次元の接頭辞を入力します。

6 オプション: 「メタデータ・ファイルの保存」を選択します。

Performance Management Architect がアプリケーションをインポートする場合  
は、.xml ファイル(metadata.xml)としてインポートされます。Performance  
Management Architect によって変換が実行され、.ads ファイルが metadata.xml  
ファイルから作成されます。通常、このファイルはトラブルシューティング  
の目的に使用されます。非常に大きいアプリケーションでは、このオプショ  
ンを選択しないことをお勧めします。

7 「実行」をクリックします。

## Performance Management Architect、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)アプリケーションから

Performance Management Architect(汎用、連結、または Planning)、Oracle Hyperion  
Profitability and Cost Management (標準または詳細)、Essbase (ASO)、Essbase (BSO)  
アプリケーションからインポート・ファイルを作成できます。

**注：** ファイル・ジェネレータ・ユーティリティは Oracle Essbase を使用してインポート・ファイルを生成し、詳細 Profitability アプリケーションはリレーショナル・データベースのみを使用するので、詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションでは、このユーティリティを使用できません。

▶ Performance Management Architect(汎用、Planning または連結)、Profitability and Cost Management(標準または詳細)、Essbase (ASO)、Essbase (BSO)アプリケーション用にインポート・ファイルを作成するには:

1 「EPMA アプリケーションから」をクリックします。

Step	Status	Processing Item	Details
1	↓	Generating EPMA file	Generating the EPMA import file completed!

2 次の情報を入力します:

- Oracle Enterprise Performance Management Workspace にログインするユーザー名とパスワード
- Performance Management Architect Web サービス URL
- Performance Management Architect(汎用、連結または Planning)、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management(標準または詳細)、Essbase (ASO) または Essbase (BSO)アプリケーション名

**注：** 抽出する特定のアプリケーション名を入力することも、共有ライブラリ全体を抽出することもできます。共有ライブラリ全体を抽出するには、アプリケーション名を指定するフィールドに「Master」と入力します。

3 EPMA インポート・ファイルの名前を指定するか、既存ファイルを検出して上書きします。

4 オプション: 次元の接頭辞を入力します。

5 オプション: テキスト・エディタにインポート・ファイルを表示するには、「表示」をクリックします。

6 オプション: 「メタデータ・ファイルの保存」を選択します。

Performance Management Architect がアプリケーションをインポートする場合は、.xml ファイル(metadata.xml)としてインポートされます。Performance Management Architect によって変換が実行され、.ads ファイルが metadata.xml ファイルから作成されます。通常、このファイルはトラブルシューティングの目的に使用されます。非常に大きいアプリケーションでは、このオプションを選択しないことをお勧めします。

## 7 「実行」をクリックします。


.ads ファイルが作成され、アプリケーションをソースとして使用します。成功メッセージがステータスの下に表示されます。

## Microsoft Excel から生成

Microsoft Excel ファイルからインポート・ファイルを作成できます。Excel ファイルで、新規次元を作成したり、次元およびメンバーのプロパティを編集できます。

▶ Microsoft Excel ファイルからインポート・ファイルを作成するには:

### 1 「Excel ファイルから」を選択します。

2  をクリックし、作成する Excel ファイルの場所およびファイル名を入力し、「保存」をクリックします。

### 3 オプション: 「メタデータ・ファイルの保存」を選択します。

Performance Management Architect がアプリケーションをインポートする場合は、.xml ファイル(metadata.xml)としてインポートされます。Oracle Hyperion EPM Architect によって変換が実行され、.ads ファイルが metadata.xml ファイルから作成されます。通常、このファイルはトラブルシューティングの目的に使用されます。非常に大きいアプリケーションでは、このオプションを選択しないことをお勧めします。

### 4 「実行」をクリックし、Excel を起動し、ファイルを開きます。

**注:** ファイルを開くとき、マクロを使用可能にする必要があります。

「別名」および「次元の関連付け」の 2 つのシートを持つ Excel ワークブックが作成されます。各ワークブックに、「別名」シートおよび「次元の関連付け」シートはそれぞれ 1 つのみ含まれます。

### 5 「別名」シートで、使用する言語別名を入力します。

Name	DimensionClass
Alias	Alias
Parent	Name
#oot	English
#oot	French
#oot	Spanish
#oot	German
#oot	Japanese

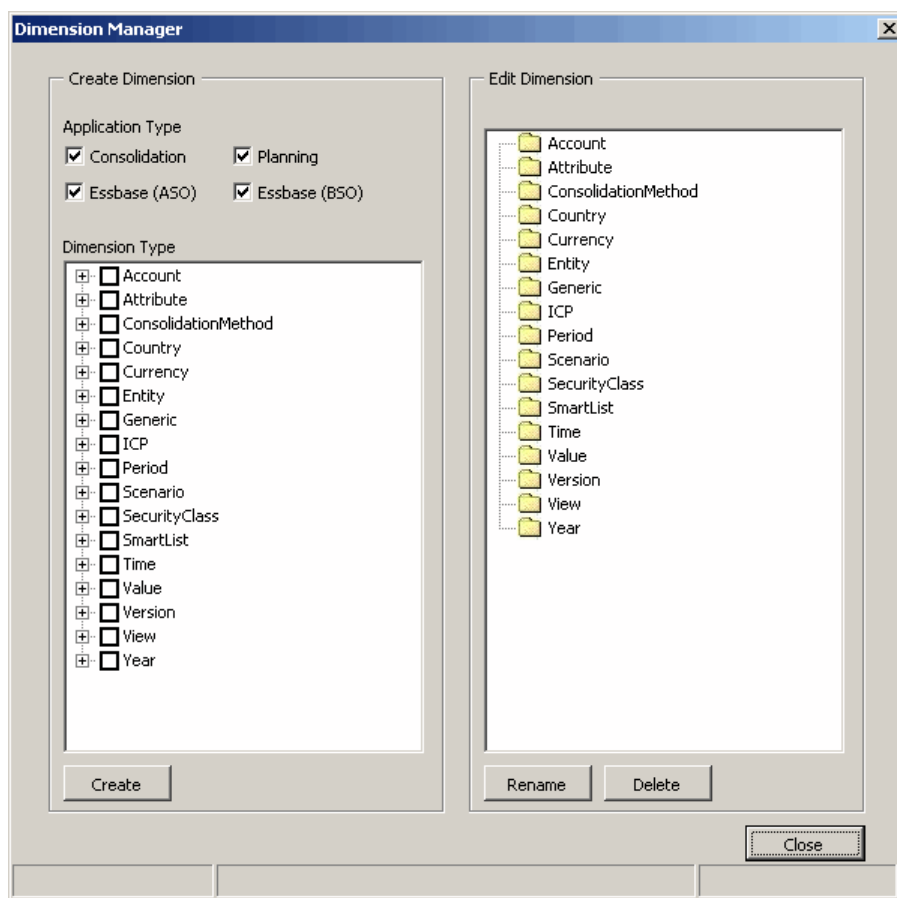
**注：** ワークブックで次元を作成する前に、「別名」シートに言語を入力してください。このようにしておけば、自動的に列が次元シートに追加されるので、メンバーの別名を同じ行に入力できるようになります。次元を作成した後に言語を追加すると、メンバー別名用の列を手動で追加する必要があります。

**ヒント：** \*.ads ファイルを別名付きで生成するには、各次元シートについて、「別名」列ヘッダーを"別名"から"デフォルト"(引用符は含みません)に変更します。続いて、Alias=English, Alias=French (それぞれ別の列)の形式で新しい別名を追加することで、列の末尾にある追加の別名を変更します。すべての別名が「別名」シートで参照されていることが重要です。入力された各次元と関連付けに対してメンバーが入力された後で、ファイル・ジェネレータを使用して\*.ads フラット・ファイルを生成します。生成後に、すべての別名が入力したとおりに Excel ワークシートに表示されることを確認します。

6 「EPMA ユーティリティ」、「次元の管理」の順に選択します。

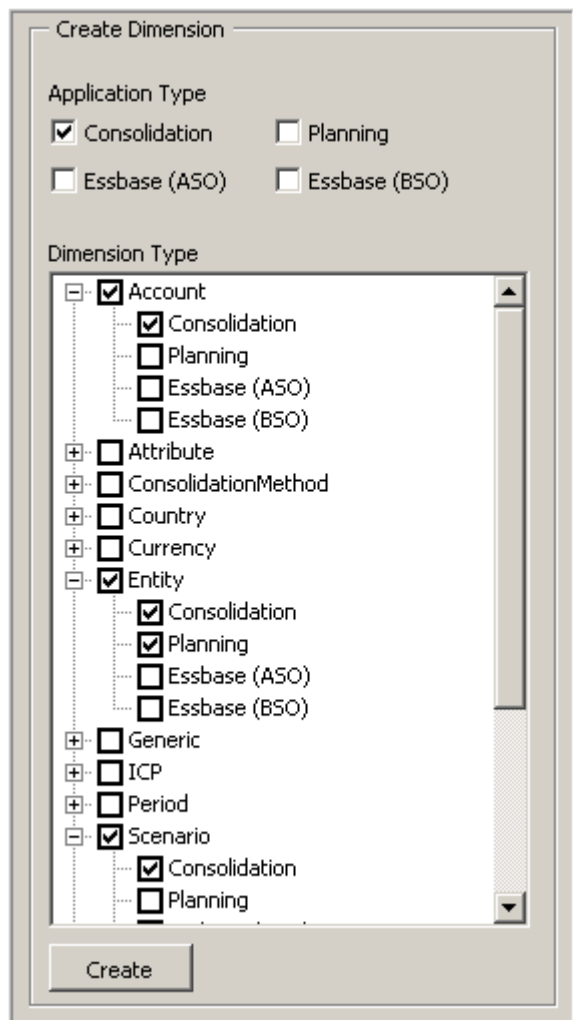
**ヒント：** Excel 2007 では、「EPMA ユーティリティ」にアクセスするためのアドインをクリックすることが必要な場合もあります。

7 次元マネージャで、次元を作成するアプリケーションを1つ以上選択します。



**注：** 選択するアプリケーション・タイプによって、次元シートの列に表示されるメンバー・プロパティが決まります。「連結」を選択した場合、連結カテゴリのメンバー・プロパティのみが表示されます。すべてのアプリケーション・タイプを選択した場合は、すべてのカテゴリのすべてのメンバー・プロパティが表示されます。

**8 作成する次元を選択します。**



**注：** 次元ベースで、次元にアプリケーション・タイプを追加できます。

**9 「作成」をクリックします。**

作成する次元ごとに、シートが Excel ワークブックに追加されます。

各次元シートに対して、シートの行 1 の列ヘッダーは次元プロパティです。

シートの行 3 の列ヘッダーはメンバー・プロパティです。

1	Name	DimensionClass	DimensionAlias	AllowDuplicatesInDimension	CommentDuplicate	ConsolidationDuplicate	DataStorageDuplicate
2	Scenario	Scenario					
3	Parent	Name	Description	Alias	ConsolidateYTD	DefaultFrequency	DefaultParent
4	#root	Actual	Actual		N	MTD	#root
5	#root	Budget	Budget		N	MTD	#root

**10 各次元ごとに次元メンバーおよびメンバー・プロパティを入力します。**

次元メンバーは親列および名前列に入力します。次元の最上位メンバーには、親列に「#root」と入力します。



プロパティを変更するには、セル内をクリックし、ドロップ・ダウン・リストを表示し、そこからプロパティ値を選択するか、情報を入力します。

ConsolidateYTD	DefaultFrequency
N	MTD
N	TD
Y	
N	

11 「EPMA ユーティリティ」、「次元の関連付け」の順に選択します。

**注：** 次元の関連付けについては、17 ページの「Financial Management 次元の関連付け」を参照してください。

12 「ターゲット次元」列で、セルを選択し、ドロップ・ダウン・リストから次元を選択します。

13 「EPMA ユーティリティ」、「フラット・ファイルの生成」の順に選択します。

14 ファイル内で使用するファイルの区切り文字のタイプを選択します。

15 「フラット・ファイルの生成」をクリックします。

16 「フラット・ファイルの保存」をクリックして、ファイルを.ADS フォーマットで保存します。

## Financial Management 次元の関連付け

Oracle Hyperion Financial Management では、次元によっては他の次元と関連付ける必要があります。次の表に、ソース次元、プロパティ名およびこれらが関連付けられるターゲット次元を示します。

表 1 Financial Management の関連付け

次元(ソース)	プロパティ名	次元(ターゲット)
勘定科目	Plug Account	勘定科目
	Alias	別名
	Custom Top Member	カスタム
	Security Class	セキュリティ・クラス
	ICP Top Member	ICP
連結メソッド	Alias	別名
通貨	Alias	別名
カスタム	Alias	別名
	Security Class	セキュリティ・クラス
エンティティ	Alias	別名
	Currency	通貨

次元(ソース)	プロパティ名	次元(ターゲット)
	Holding Company	エンティティ
	Security Class	セキュリティ・クラス
	Security As Partner	セキュリティ・クラス
ICP	Alias	別名
	Security Class	セキュリティ・クラス
期間	Alias	別名
シナリオ	Alias	別名
	Security Class	セキュリティ・クラス
	Default Frequency	表示
	Default Frequency for IC Transactions	表示
値	Alias	別名
表示	Alias	別名
年	Alias	別名

## 次元の削除

▶ 次元を削除するには:

- 1 Excel で次元ワークシートを選択し、「EPMA ユーティリティ」、「次元の削除」の順に選択します。
- 2 削除する次元を選択します。
- 3 「削除」をクリックし、次元を削除します。

注: 「別名」ワークシートまたは「次元の関連付け」ワークシートは削除できません。

## ファイル・ジェネレータを閉じる

▶ Performance Management Architect ファイル・ジェネレータを閉じるには、「閉じる」ボタンをクリックします。

# 索引

## A - Z

Financial Management

次元の関連付け, 17

Financial Management アプリケーションから生成

インポート・ファイル, 10

Microsoft Excel

生成元, 14

Planning アプリケーションから生成

インポート・ファイル, 11

## あ行

インストール

ファイル・ジェネレータ, 7

インポート・ファイル

Essbase (ASO)アプリケーションから生成, 12

Essbase (BSO)アプリケーションから生成, 12

Financial Management アプリケーションから生成, 10, 11

Financial Management から生成, 9

Microsoft Excel から, 14

Performance Management Architect アプリケーションから生成, 12

Profitability and Cost Management アプリケーションから生成, 12

生成, 9

## さ行

削除

次元, 18

次元の関連付け

Financial Management, 17

生成

Financial Management からのインポート・ファイル, 9

インポート・ファイル, 9

## は行

ファイル・ジェネレータ

インストール, 7

